経済産業省委託事業

平成２４年度

原子力関連業務人材育成実務研修のご案内

平成２４年８月

関　西　電　力　株　式　会　社
財団法人若狭湾エネルギー研究センター

本資料は、関西電力株式会社および財団法人若狭湾エネルギー研究センターが
経済産業省からの委託を受けた研修事業を実施するために作成したものです。

目　次

ごあいさつ　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　1
研修の概要　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　2
研修会場およびスケジュール　・・・・・・・・・・・・・・・・・　3

各研修のご案内（関西電力株式会社　実施分）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　4
Ⅲ－１－①　実務研修　原子力発電所従事者の放射線管理研修　・・・・・　5
Ⅲ－２－①　実務研修　放射線管理研修（人体内の汚染除去法）　・・・・・　6
Ⅲ－３－①　実務研修　放射線管理研修（環境試料の分析と汚染除去法）・・・・・　7
Ⅲ－４－①　実務研修　溶剤除去性浸透試験による欠陥探傷技術研修　・・・・・　8
Ⅲ－５－①　実務研修　超音波試験による欠陥探傷技術研修Ⅰ　・・・・・　9
Ⅲ－５－②　実務研修　超音波試験による欠陥探傷技術研修Ⅱ　・・・・・１０
Ⅲ－６－①　実務研修　電気工事の現場技術力向上研修Ⅰ　・・・・・１１
Ⅲ－６－②　実務研修　電気工事の現場技術力向上研修Ⅱ　・・・・・１２

各研修のご案内（財団法人若狭湾エネルギー研究センター　実施分）　・・・・・１３
Ⅲ－７－①　実務研修　原子力発電所従事者の放射線計測技術研修　・・・・・１４
Ⅲ－８－①　実務研修　電気工事の現場施工管理研修Ⅰ（設備編）　・・・・・１５
Ⅲ－８－②　実務研修　電気工事の現場施工管理研修Ⅰ（法令編）　・・・・・１６
Ⅲ－９－①　実務研修　電気工事の現場施工管理研修Ⅱ（課題演習編）　・・・・・１７
Ⅲ－10－①　実務研修　電気工事の現場施工管理研修Ⅱ（設備編）　・・・・・１８
Ⅲ－10－②　実務研修　電気工事の現場施工管理研修Ⅱ（法令編）　・・・・・１９
Ⅲ－11－①　実務研修　配管工事の現場施工管理研修Ⅰ（総合編）　・・・・・２０
Ⅲ－11－②　実務研修　配管工事の現場施工管理研修Ⅰ（設備編）　・・・・・２１
Ⅲ－11－③　実務研修　配管工事の現場施工管理研修Ⅰ（法令・管理編）・・・・・２２
Ⅲ－12－①　実務研修　配管工事の現場施工管理研修Ⅱ（課題演習編）　・・・・・２３
Ⅲ－13－①　実務研修　配管工事の現場施工管理研修Ⅱ（総合編）　・・・・・２４
Ⅲ－13－②　実務研修　配管工事の現場施工管理研修Ⅱ（設備編）　・・・・・２５
Ⅲ－13－③　実務研修　配管工事の現場施工管理研修Ⅱ（法令・管理編）・・・・・２６
Ⅲ－14－①　実務研修　現場密着型技術研修　・・・・・２７

研修申込み要領および申込書　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２８

ごあいさつ

福井県は、平成１７年３月に地域と原子力の自立的な連携を目指して「エネルギー研究開発拠点化計画」を策定しました。原子力関連業務人材育成実務研修（以下、実務研修という）は、この計画に基づいて関西電力株式会社および財団法人若狭湾エネルギー研究センターが実施するものです。既に原子力発電所のメンテナンス業務へ参入済みで、さらなる技術力向上を希望する県内企業等を対象に、「放射線に関する知識習得」および「現場技術者の技術向上」にかかる研修を行います。

この研修は、受講者の幅広い技術レベルや多種多様な知識・技能習得へのニーズに対応した、きめ細かなカリキュラムとしております。

この研修を実り多いものにするため、皆様の積極的なご参加を期待しております。

関西電力株式会社

関西電力能力開発センター　原子力研修センター

所　長　高島　由明

財団法人若狭湾エネルギー研究センター

理事長　旭　信昭

研修の概要

（1）目標

原子力発電所のメンテナンス業務にかかる知識・技能を習得することにより、技術レベルの向上を図り、原子力発電所のメンテナンス業務の一層の質向上を目標にしています。

（2）対象者

主に原子力発電所のメンテナンス業務に従事する県内企業もしくは県内に事業所のある企業（以下、県内企業等）の「作業班長」等を対象とします。

（3）研修内容

カリキュラムは、下記の研修に分かれています。

①「放射線に関する知識習得」：原子力発電所従事者の放射線管理研修
放射線管理研修（人体内の汚染除去法）
放射線管理研修（環境試料の分析と汚染除去法）
原子力発電所従事者の放射線計測技術研修

②「現場技術者の技術向上」：溶剤除去性浸透試験による欠陥探傷技術研修
超音波試験による欠陥探傷技術研修
電気工事の現場技術力向上研修
電気工事の現場施工管理研修
配管工事の現場施工管理研修
現場密着型技術研修

研修の案内には、カリキュラム毎に受講に必要な知識・経験の「レベル」を目安として記載しておりますので受講申込みの際にご参考としてください。

詳しくは、４ページ以降の各研修のご案内をご覧ください。

（4）研修日程

３ページの研修スケジュールをご覧ください。

なお、この研修について何かご不明な点やご質問がありましたら、遠慮なくお問い合わせください。

【お問い合わせ先】

関西電力株式会社
関西電力能力開発センター　原子力研修センター
電話　0770-72-3825（直通）
FAX　0770-72-3857

財団法人若狭湾エネルギー研究センター
福井県国際原子力人材育成センター　国内人材育成グループ
電話　0770-24-7274（直通）
FAX　0770-24-7275
E-mail　jinzai@werc.or.jp

研修会場およびスケジュール

8月	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
若狭湾エネルギー研究センター																															
関西電力能力開発センター原子力研修センター																													溶剤除去		

9月	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
若狭湾エネルギー研究センター																		溶剤除去												
													放射線						電気Ⅰ設備									電気Ⅰ法令		
																		配管Ⅰ総合		配管Ⅰ総合						配管Ⅰ法令管理		電気Ⅱ演習		
関西電力能力開発センター原子力研修センター			超音波試験Ⅰ							超音波試験Ⅱ								電気工事Ⅰ		電気工事Ⅱ										

10月	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
若狭湾エネルギー研究センター		配管Ⅰ設備															配管Ⅱ演習									放射線(人体)					
関西電力能力開発センター原子力研修センター																						電気工事Ⅰ		電気工事Ⅱ							

11月	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	
若狭湾エネルギー研究センター																											電気Ⅱ設備				
関西電力能力開発センター原子力研修センター																															

12月	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
若狭湾エネルギー研究センター																															
																					放射線計測										
関西電力能力開発センター原子力研修センター																															

1月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
若狭湾エネルギー研究センター															配管Ⅱ総合									配管Ⅱ設備					配管Ⅱ法令管理		
																									放射線(環境)						
関西電力能力開発センター原子力研修センター																															

2月	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28
若狭湾エネルギー研究センター	電気Ⅱ法令																											
関西電力能力開発センター原子力研修センター																												

各研修のご案内

関西電力株式会社　実施分

Ⅲ－１－①　実務研修　原子力発電所従事者の放射線管理研修

概　　要　　東京電力福島第一原子力発電所事故を踏まえ、放射線についての正しい知識を学んでもらうことで、原子力発電所で働く作業員が抱く放射線に対する過度な不安を解消するとともに、今後の業務に役立ててもらうことを目指す。

対　　象　（職　務）　・原子力発電所のメンテナンス業務に従事する県内企業等の「職長」および「作業員」の方

定　　員　　３０名

参 加 費　　無料

講　　師　　渡利　一夫（独立行政法人　放射線医学総合研究所 名誉研究員 理学博士）
※大気圏核実験、チェルノブイリ事故、東京電力福島第一原子力発電所事故についての講師の経験を踏まえた研修

カリキュラム

日　程	カリキュラム	
１日目	１．放射線・放射能についての基礎的な知識 ２．自然環境における放射線・放射能 ３．人工の放射能の生成と主な核種の性質 ４．環境および人体の汚染 ５．人体内における放射性核種の挙動と国際機関による除去法の実際 ６．放射線の人体への影響と放射線管理基準 ７．現代における放射線の利用の拡大 ８．過去の放射線事故と放射線障害 ９．東京電力福島第一原子力発電所事故における環境汚染と対策 10．質疑応答（事前の質問回答含む）	7.0時間

目　　標　　・暮らしの中の放射線がどのように人体に関わっているかをを正しく理解。
・過去の原子力発電所の事故等による放射能の人体への影響、その対応について理解を深め、危機管理能力の向上に資する。

会　　場　　福井県若狭湾エネルギー研究センター

開 催 日

日　程	期　間
第１回	平成24年9月13日(木)　9:00～17:00

教　　材

使用教材	仕　様
テキスト	放射能と人体　＊くらしの中の放射線（研成社）

Ⅲ－２－①　実務研修　放射線管理研修（人体内の汚染除去法）

概　　要　東京電力福島第一原子力発電所事故で、放射性物質が環境へ放出されたことにより、周辺地域住民への人体への影響やその除去法について関心が高まっている。

我が国は、過去に大気圏核実験による環境汚染を経験しており、当時、環境放射能について様々な分野で活発に研究がおこなわれていた。その後、これらの分野における研究は廃止あるいは縮小され今日に至っている。本研修では、以前の研究例を掘り起こすとともに、最新の知見を加え、放射性核種の人体内挙動と除去のメカニズムをわかりやすく解説するとともに、除去法の実際、事故例、用語解説にも言及し、今後の原子力防災業務の一環として人体の汚染除去法に関する理解を深め、危機管理能力の向上に資する。

対　　象　放射線管理業務、メンテナンス業務従事者等、本分野に関心のある方

定　　員　３０名

参 加 費　無料

講　　師　渡利　一夫（独立行政法人　放射線医学総合研究所 名誉研究員 理学博士）
※大気圏核実験、チェルノブイリ事故、東京電力福島第一原子力発電所事故についての講師の経験を踏まえた研修

カリキュラム

日　程	カリキュラム	
１日目	１．放射性核種の生体内挙動 ２．生体内放射性核種除去のメカニズム ３．除去方法の実際 ４．東京電力福島第一原子力発電所事故を踏まえた人体の汚染除去の状況 ５．質疑応答（事前の質問回答含む）	7.0時間

目　　標　放射性核種の人体内挙動と除去のメカニズム等について、最新の知識を得て、今後の原子力防災業務の一環として人体の汚染除去法に関する理解を深め、危機管理能力の向上に資する。

会　　場　福井県若狭湾エネルギー研究センター

開 催 日

日　程	期　間
第１回	平成24年10月26日(金)　9:00～17:00

教　　材

使用教材	仕　様
テキスト	人体内放射能の除去技術－挙動と除染のメカニズム－（講談社）

Ⅲ－３－①　実務研修　放射線管理研修（環境試料の分析と汚染除去法）

概　　要　　東京電力福島第一原子力発電所事故で、放射性物質が環境へ放出されたことにより、周辺地域において土壌や海洋の汚染が生じた。現在、原子力発電所周辺地域等の放射線や放射性物質の量などを測定し、地域住民の健康安全上問題がないか、異常な傾向を示していないかなどが調査されている。本研修は、環境放射線モニタリングの調査対象となる環境試料（陸上、海上等）やその測定項目、分析法等について体系的に理解するとともに、過去の大気圏核実験やチェルノブイリ事故に係る経験・研究事例等を踏まえ、事故による汚染と除染の現状について正しい情報、知識を得ることにより、今後の原子力防災業務の一環として環境放射線モニタリングに関する理解を深め、危機管理能力の向上に資する。

対　　象　　放射線管理業務、メンテナンス業務従事者等、本分野に関心のある方

定　　員　　３０名

参 加 費　　無料

講　　師　　渡利　一夫（独立行政法人　放射線医学総合研究所 名誉研究員 理学博士）
※大気圏核実験、チェルノブイリ事故、東京電力福島第一原子力発電所事故についての講師の経験を踏まえた研修

カリキュラム

日　程	カリキュラム	
１日目	１．大気圏核実験当時のわが国の環境汚染 ２．放射性核種の環境中の挙動 ３．環境試料の分析法 ４．東京電力福島第一原子力発電所事故による汚染と除染 ５．質疑応答（事前の質問回答を含む）	7.0時間

目　　標　　環境試料（陸上、海上等）やその測定項目、分析法や除染の現状等について正しい情報、知識を得て、今後の原子力防災業務の一環として環境放射線モニタリングに関する理解を深め、危機管理能力の向上に資する。

会　　場　　福井県若狭湾エネルギー研究センター

開 催 日

日　程	期　間
第１回	平成25年1月25日(金)　9:00～17:00

教　　材

使用教材	仕　様
テキスト	環境試料の分析と汚染除去法

Ⅲ－４－①　実務研修　溶剤除去性浸透試験による欠陥探傷技術研修

概　　要　　東京電力福島第一原子力発電所事故を踏まえ、機器設備の信頼性、重要性が再認識されている。本研修では、溶剤除去性浸透探傷検査レベル２の知識を演習と実技を通じて学ぶことで、欠陥探傷技術の向上を目指す。また、過去のトラブル事例等の内容について理解を深める。

対　　象　　（職　務）・原子力発電所のメンテナンス業務に従事する県内企業の「職長」および「作業員」の方

対象レベル　　・ＰＤ２相当の知識および技術を習得したい方

定　　員　　２０名

参 加 費　　無料（教材の一部は、各自ご用意）

カリキュラム

日　程	カリキュラム		
１日目	・材料、溶接及び欠陥に関する知識 ・浸透探傷試験の基礎知識	（演習） （演習）	2.0 時間 5.0 時間
２日目	・浸透探傷試験の器具、探傷材 ・浸透探傷試験の手順	（演習） （演習）	2.0 時間 5.0 時間
３日目	・溶剤除去性浸透探傷試験実習 ・指示書の作成実習	（実技） （実技）	5.0 時間 2.0 時間

目　　標　　溶剤除去性浸透探傷技術の習得

会　　場　　敦賀会場　福井県若狭湾エネルギー研究センター
高浜会場　関西電力能力開発センター　原子力研修センター（※）

開 催 日

日　程	期　間
第１回	高浜　平成 24 年 8 月 29 日(水)～8 月 31 日（金）　9:00～17:00
第２回	敦賀　平成 24 年 9 月 18 日(火)～9 月 20 日（木）　9:00～17:00

教　　材

使用教材	仕　様
テキスト	日本非破壊検査協会発行「金属材料入門」* 「浸透探傷試験Ⅰ」*「浸透探傷試験Ⅱ」*、演習用テキスト
問題集	日本非破壊検査協会発行「浸透探傷試験問題集」*
探傷材	溶剤除去性染色浸透液、速乾式現像剤（JIS Z 2343-2 適合品）
テストピース	溶接試験片

＊マークのテキスト類は、各自ご用意いただきますようお願いします。

※昼食について事前予約が必要です。食事代は個人負担になります。（昼食代 400 円）

Ⅲ－５－①　実務研修　超音波試験による欠陥探傷技術研修Ⅰ

概　　要　東京電力福島第一原子力発電所事故を踏まえ、機器設備の信頼性、重要性が再認識されている。本研修では、超音波探傷試験レベル１の基礎知識を演習および実技を通じて学ぶことで欠陥探傷技術の向上を目指す。また、過去のトラブル事例等の内容について理解を深める。

対　　象　（職　務）・原子力発電所のメンテナンス業務に従事する県内企業の「職長」および「作業員」の方
対象レベル　・ＵＴ１相当の知識および技術を習得したい方

定　　員　１０名

参 加 費　無料（教材の一部は、各自ご用意）

カリキュラム

日　程	カリキュラム		
１日目	・超音波探傷試験の基礎	（演習）	4.0 時間
	・垂直探傷試験	（演習）	3.0 時間
２日目	・斜角探傷試験	（演習）	5.0 時間
	・厚さ測定	（演習）	2.0 時間
３日目	・超音波探傷装置の操作	（実技）	1.0 時間
	・超音波探傷装置の調整	（実技）	2.0 時間
	・垂直探傷試験	（実技）	4.0 時間
４日目	・斜角探傷試験	（実技）	5.0 時間
	・厚さ測定	（実技）	2.0 時間

目　　標　超音波探傷技術に係る基礎知識の習得
会　　場　関西電力能力開発センター　原子力研修センター（※）

開 催 日

日　程	期　間
第１回	平成 24 年９月３日(月)～９月６日（木）　9:00～17:00

教　　材

使用教材	仕　様
テキスト	日本非破壊検査協会発行「超音波探傷試験Ⅰ」*「超音波厚さ測定Ⅰ」*、演習用テキスト
問題集	日本非破壊検査協会発行「超音波探傷試験問題集」*
探傷材	超音波探傷器、各種標準試験片（JIS Z 2345 適合品）
テストピース	きず入り溶接試験片、きず入り垂直探傷用試験片他

＊マークのテキスト類は、各自ご用意いただきますようお願いします。

※昼食について事前予約が必要です。食事代は個人負担になります。（昼食代 400 円）

Ⅲ－５－②　実務研修　超音波試験による欠陥探傷技術研修Ⅱ

概　　要　　東京電力福島第一原子力発電所事故を踏まえ、機器設備の信頼性、重要性が再認識されている。本研修では、超音波探傷試験レベル２の専門知識を演習および実技を通じて学ぶことで欠陥探傷技術の向上を目指す。また、過去のトラブル事例等の内容について理解を深める。

対　　象　　（職　務）・原子力発電所のメンテナンス業務に従事する県内企業の「職長」および「作業員」の方
対象レベル　　・ＵＴ２相当の知識および技術を習得したい方

定　　員　　１０名
参 加 費　　無料（教材の一部は、各自ご用意）

カリキュラム

日　程	カリキュラム		
１日目	・材料、溶接及び欠陥に関する知識 ・超音波探傷試験の基礎	（演習） （演習）	2.0時間 5.0時間
２日目	・超音波探傷試験装置 ・きずの評価方法、関連規格	（演習） （演習）	2.0時間 5.0時間
３日目	・製品の斜角探傷 ・垂直探傷によるきずの評価	（実技） （実技）	5.0時間 2.0時間
４日目	・製品の斜角探傷	（実技）	7.0時間
５日目	・斜角探傷によるきずの評価 ・試験装置の点検、性能測定 ・指示書の作成	（実技） （実技） （実技）	3.0時間 2.0時間 2.0時間

目　　標　　超音波探傷技術に係る専門知識の習得
会　　場　　関西電力能力開発センター　原子力研修センター（※）

開 催 日

日　程	期　間
第１回	平成24年9月10日(月)～9月14日（金）　9:00～17:00

教　　材

使用教材	仕　様
テキスト	日本非破壊検査協会発行「超音波探傷試験Ⅰ」*「超音波厚さ測定Ⅰ」*、演習用テキスト
問題集	日本非破壊検査協会発行「超音波探傷試験問題集」*
探傷材	超音波探傷器、各種標準試験片（JIS Z 2345適合品）
テストピース	きず入り溶接試験片、きず入り垂直探傷用試験片他

＊ マークのテキスト類は、各自ご用意いただきますようお願いします。

※昼食について事前予約が必要です。食事代は個人負担になります。（昼食代400円）

Ⅲ－６－①　実務研修　電気工事の現場技術力向上研修Ⅰ

概　　要　　東京電力福島第一原子力発電所事故を踏まえ、電気設備の信頼性、重要性が再認識されている。本研修では電気設備の基礎知識について講義と実技を通じて学ぶことで、電気工事に関する現場管理の向上を目指す。また、過去のトラブル事例等の内容について理解を深める。

対　　象　　（職　務）・原子力発電所のメンテナンス業務に従事する県内企業の「職長」および「作業員」の方

対象レベル　　・第２種電気工事士相当の知識および技術を習得したい方

定　　員　　１０名

参 加 費　　無料（教材は、各自ご用意）

カリキュラム

日　程	カリキュラム	
１日目	電気一般　（講義） １．電気に関する基礎理論 ２．配電理論及び配線設計 ３．電気機器、配線器具ならびに電気工事用の材料及び工具	7.0 時間
２日目	電気工事実務　（講義） ４．電気工事の施工方法 ５．一般用電気工作物の検査方法 ６．一般用電気工作物の保安に関する法令 ７．配線図の概要と読み方、考え方	7.0 時間
３日目	電気工事の技能演習　（実技）	7.0 時間
４日目	電気工事の技能演習　（実技）	7.0 時間

目　　標　　電気工事の現場管理に関する基礎知識の習得

会　　場　　関西電力能力開発センター　原子力研修センター（※）

開 催 日

日　程	期　　間
１日目	平成 24 年 9 月 18 日(火)　9:00～17:00
２日目	平成 24 年 9 月 19 日(水)　9:00～17:00
３日目	平成 24 年 10 月 22 日(月)　9:00～17:00
４日目	平成 24 年 10 月 23 日(火)　9:00～17:00

教　　材

市販の教材（電気工事関係）を使用する予定です。

お申し込みの方に、使用する教材をご案内しますので、事前に各自お買い求めの上、研修当日ご持参願います。

※昼食について事前予約が必要です。食事代は個人負担になります。（昼食代 400 円）

Ⅲ－６－②　実務研修　電気工事の現場技術力向上研修Ⅱ

概　　要　東京電力福島第一原子力発電所事故を踏まえ、電気設備の信頼性、重要性が再認識されている。本研修では電気設備の専門知識について講義と実技を通じて学ぶことで電気工事に関する現場管理の向上を目指す。また、過去のトラブル事例等の内容について理解を深める。

対　　象　（職　務）・原子力発電所のメンテナンス業務に従事する県内企業の「職長」および「作業員」の方

対象レベル　・第１種電気工事士相当の知識および技術を習得したい方

定　　員　１０名

参 加 費　無料（教材は、各自ご用意）

カリキュラム

日　程	カリキュラム	
１日目	電気一般　（講義） １．電気に関する基礎理論 ２．配電理論及び配線設計 ３．電気応用 ４．電気機器、蓄電池、配線器具、電気工事用の材料及び工具並びに受電設備	7.0時間
２日目	電気工事実務　（講義） ５．電気工事の施工方法 ６．自家用電気工作物の検査方法 ７．配線図 ８．発電施設、送電施設及び変電施設の基礎的な構造及び特性 ９．一般用電気工作物及び自家用電気工作物の保安に関する法令	7.0時間
３日目	電気工事の技能演習　（実技）	7.0時間
４日目	電気工事の技能演習　（実技）	7.0時間

目　　標　電気工事の現場管理に関する専門知識の習得

会　　場　関西電力能力開発センター　原子力研修センター（※）

開 催 日

日　程	期　間
１日目	平成24年 9月20日(木)　9:00～17:00
２日目	平成24年 9月21日(金)　9:00～17:00
３日目	平成24年10月24日(水)　9:00～17:00
４日目	平成24年10月25日(木)　9:00～17:00

教　　材

市販の教材（電気工事関係）を使用する予定です。

お申し込みの方に、使用する教材をご案内しますので、事前に各自お買い求めの上、研修当日ご持参願います。

※昼食について事前予約が必要です。食事代は個人負担になります。（昼食代400円）

各研修のご案内

財団法人若狭湾エネルギー研究センター　実施分

Ⅲ－７－①　実務研修　原子力発電所従事者の放射線計測技術研修

概　　要　　東京電力福島第一原子力発電所事故を踏まえ、原子力発電所で働く作業員が抱く放射線に対する過度な不安を解消するとともに、放射線計測について講習および実習を通じて計測機器の正しい知識や取り扱いを学んでもらうことで、今後の業務に役立ててもらうことを目指す。

対　　象　（職　務）　原子力発電所のメンテナンス業務に従事する県内企業等の「職長」および「作業員」の方

定　　員　　２０名

参 加 費　　無料

カリキュラム

日　程	カリキュラム	
１日目	１．放射線の基礎（放射線物理、放射線測定） ２．放射線の人体影響（確定的影響、確率的影響） ３．線量測定（距離、遮へい、時間）　（講義） ４．表面汚染（汚染箇所特定、汚染密度） ５．食品中の放射能（測定試料の放射能評価）　（実習）	7.0時間

目　　標　　放射線計測について正しい知識および測定方法等を正しく理解。

会　　場　　福井県若狭湾エネルギー研究センター

開 催 日

日　程	期　間
第１回	平成24年12月21日(金)　9:00～17:00

教　　材

こちらでご用意します。

Ⅲ－８－①　実務研修　電気工事の現場施工管理研修Ⅰ（設備編）

概　　要　　東京電力福島第一原子力発電所事故を踏まえ、電気設備の信頼性、重要性が再認識されている。本研修は、電気設備の安全対策等の基礎知識について講義を通じて体系的に学ぶことで、電気工事に関する現場施工管理の向上を目指す。

対象レベル　　・工業高校卒業程度の技術知識をお持ちの方
・２級電気工事施工管理技士相当の知識を習得したい方

定　　員　　１５名

参 加 費　　無料　（教材は、各自ご用意）

カリキュラム

日　程	カリキュラム	
１日目	・構内電気設備Ⅰ（共通、電灯設備、動力設備、幹線、受変電設備等、静止形電源設備、接地等） ・土木工事　（講義）	7.0 時間
２日目	・施設電気設備 ・電気工学、電気設備（発変電・送配電設備）等　（講義）	7.0 時間
３日目	・構内電気設備Ⅱ（防災設備、構内通信設備）等　（講義）	6.0 時間

目　　標　　電気工事の施工管理に関する基礎知識の取得

会　　場　　福井県若狭湾エネルギー研究センター

開 催 日

日　程	期　間
１日目	平成 24 年 9 月 19 日(水)　9:00～17:00
２日目	平成 24 年 9 月 20 日(木)　9:00～17:00
３日目	平成 24 年 9 月 21 日(金)　9:00～16:00

教　　材

市販の教材（電気工事関係）を使用する予定です。

お申し込みの方に、使用する教材をご案内しますので、事前に各自お買い求めの上、研修当日ご持参願います。

Ⅲ－８－②　実務研修　電気工事の現場施工管理研修Ⅰ（法令編）

概　　要　　東京電力福島第一原子力発電所事故を踏まえ、電気設備の信頼性、重要性が再認識されている。本研修は、電気設備の安全対策を向上するために重要な法令の基礎知識について講義を通じて体系的に学ぶことで、電気工事に関する現場施工管理の向上を目指す。

対象レベル　　・工業高校卒業程度の技術知識をお持ちの方
・２級電気工事施工管理技士相当の知識を習得したい方

定　　員　　１５名

参 加 費　　無料　（教材は、各自ご用意）

カリキュラム

日　程	カリキュラム	
１日目	・安全管理、労働安全衛生法、施工管理法、電気事業法等（講義）	6.0時間

目　　標　　電気工事の施工管理に関する基礎知識の取得

会　　場　　福井県若狭湾エネルギー研究センター

開 催 日

日　程	期　間
第１回	平成24年9月28日(金)　9:00～16:00

教　　材

市販の教材（電気工事関係）を使用する予定です。

お申し込みの方に、使用する教材をご案内しますので、事前に各自お買い求めの上、研修当日ご持参願います。

Ⅲ－９－①　実務研修　電気工事の現場施工管理研修Ⅱ（課題演習編）

概　　要　　東京電力福島第一原子力発電所事故を踏まえ、電気設備の信頼性、重要性が再認識されている。本研修は、安全対策を向上するための電気工事に関する専門知識について演習を通じて学ぶことで、知識の定着化ならびに現場での施工管理の向上を目指す。

対象レベル　　・工業高校卒業程度の技術知識をお持ちの方
・２級電気工事施工管理技士相当の知識をお持ちの方
・１級電気工事施工管理技士相当の知識を習得したい方

定　　員　　１５名

参 加 費　　無料　（教材は、各自ご用意）

カリキュラム

日　程	カリキュラム	
１日目	課題演習　（講義と演習）	7.0時間

目　　標　　電気工事の施工管理に関する専門知識の取得

会　　場　　福井県若狭湾エネルギー研究センター

開 催 日

日　程	期　間
第１回	平成24年9月28日(金)　9:00～17:00

教　　材

市販の教材（電気工事関係）を使用する予定です。
お申し込みの方に、使用する教材をご案内しますので、事前に各自お買い求めの上、研修当日ご持参願います。

Ⅲ－10－①　実務研修　電気工事の現場施工管理研修Ⅱ（設備編）

概　　要　　東京電力福島第一原子力発電所事故を踏まえ、電気設備の信頼性、重要性が再認識されている。本研修は、電気設備の安全対策等の専門知識について講義と演習を通じて体系的に学ぶことで、電気工事に関する現場施工管理の向上を目指す。

対象レベル　　・工業高校卒業程度の技術知識をお持ちの方
・２級電気工事施工管理技士相当の知識をお持ちの方
・１級電気工事施工管理技士相当の知識を習得したい方

定　　員　　１５名

参 加 費　　無料　（教材は、各自ご用意）

カリキュラム

日　程	カリキュラム	
１日目	・構内電気設備Ⅰ（共通、電灯設備、動力設備、幹線、受変電設備等、静止形電源設備、接地等） ・土木工事　（講義）	7.0時間
２日目	・施設電気設備 ・電気工学、電気設備（発変電・送配電設備）等　（講義）	7.0時間
３日目	・構内電気設備Ⅱ（防災設備、構内通信設備）等　（講義）	6.0時間

目　　標　　電気工事の施工管理に関する専門知識の取得

会　　場　　福井県若狭湾エネルギー研究センター

開 催 日

日　程	期　間
１日目	平成24年11月27日(火)　9:00～17:00
２日目	平成24年11月28日(水)　9:00～17:00
３日目	平成24年11月29日(木)　9:00～16:00

教　　材

市販の教材（電気工事関係）を使用する予定です。

お申し込みの方に、使用する教材をご案内しますので、事前に各自お買い求めの上、研修当日ご持参願います。

Ⅲ－10－②　実務研修　電気工事の現場施工管理研修Ⅱ（法令編）

概　　要　　東京電力福島第一原子力発電所事故を踏まえ、電気設備の信頼性、重要性が再認識されている。本研修は、電気設備の安全対策を向上するために重要な法令の専門知識について講義と演習を通じて体系的に学ぶことで、電気工事に関する現場施工管理の向上を目指す。

対象レベル　　・工業高校卒業程度の技術知識をお持ちの方
・２級電気工事施工管理技士相当の知識をお持ちの方
・１級電気工事施工管理技士相当の知識を習得したい方

定　　員　　１５名

参 加 費　　無料　（教材は、各自ご用意）

カリキュラム

日　程	カリキュラム	
１日目	・安全管理、労働安全衛生法、施工管理法、電気事業法等（講義）	6.0 時間

目　　標　　電気工事の施工管理に関する専門知識の取得

会　　場　　福井県若狭湾エネルギー研究センター

開 催 日

日　程	期　間
第１回	平成 25 年２月１日(金)　9:00～16:00

教　　材

市販の教材（電気工事関係）を使用する予定です。

お申し込みの方に、使用する教材をご案内しますので、事前に各自お買い求めの上、研修当日ご持参願います。

Ⅲ－11－①　実務研修　配管工事の現場施工管理研修Ⅰ（総合編）

概　　要　東京電力福島第一原子力発電所事故を踏まえ、建物構造の信頼性、重要性が再認識されている。本研修は、原子力関連施設の構造上、不可欠な配管の工事に関し、安全対策を向上するために重要な基礎知識（工事施工の基本等）について講義を通じて体系的に学ぶことで、配管工事の現場施工管理の向上を目指す。

対象レベル　・工業高校卒業程度の技術知識をお持ちの方
・２級管工事施工管理技士相当の知識を習得したい方

定　　員　１５名

参 加 費　無料（教材は、各自ご用意）

カリキュラム

日　程	カリキュラム	
１日目	・一般基礎　（講義）	6.5 時間
２日目	・機器および材料　（講義）	6.5 時間
３日目	・電気・建築および工事施工　（講義）	6.5 時間

目　　標　配管工事の施工管理に関する基礎知識の習得

会　　場　福井県若狭湾エネルギー研究センター

開 催 日

日　程	期　間
１日目	平成 24 年 9 月 18 日(火)　9:30～17:00
２日目	平成 24 年 9 月 20 日(木)　9:30～17:00
３日目	平成 24 年 9 月 21 日(金)　9:30～17:00

教　　材

市販の教材（配管工事関係）を使用する予定です。
お申し込みの方に、使用する教材をご案内しますので、事前に各自お買い求めの上、研修当日ご持参願います。

Ⅲ－11－②　実務研修　配管工事の現場施工管理研修Ⅰ（設備編）

概　　要　東京電力福島第一原子力発電所事故を踏まえ、建物構造の信頼性、重要性が再認識されている。本研修は、原子力関連施設の構造上、不可欠な配管の工事に関し、安全対策を向上するために重要な基礎知識（設備の概要等）について講義を通じて体系的に学ぶことで、配管工事の現場施工管理の向上を目指す。

対象レベル　・工業高校卒業程度の技術知識をお持ちの方
・２級管工事施工管理技士相当の知識を習得したい方

定　　員　１５名

参 加 費　無料（教材は、各自ご用意）

カリキュラム

日　程	カリキュラム	
１日目	・空調設備　（講義）	6.5 時間
２日目	・衛生設備　（講義）	6.5 時間

目　　標　配管工事の施工管理に関する基礎知識の習得

会　　場　福井県若狭湾エネルギー研究センター

開 催 日

日　程	期　間
１日目	平成 24 年 10 月 2 日(火)　9:30～17:00
２日目	平成 24 年 10 月 3 日(水)　9:30～17:00

教　　材

市販の教材（配管工事関係）を使用する予定です。

お申し込みの方に、使用する教材をご案内しますので、事前に各自お買い求めの上、研修当日ご持参願います。

Ⅲ－11－③　実務研修　配管工事の現場施工管理研修Ⅰ（法令・管理編）

概　　要　　東京電力福島第一原子力発電所事故を踏まえ、建物構造の信頼性、重要性が再認識されている。本研修は、原子力関連施設の構造上、不可欠な配管の工事に関し、安全対策を向上するために重要な法令と施工管理の基礎知識について講義を通じて体系的に学ぶことで、配管工事の現場施工管理の向上を目指す。

対象レベル　　・工業高校卒業程度の技術知識をお持ちの方
・２級管工事施工管理技士相当の知識を習得したい方

定　　員　　１５名

参 加 費　　無料（教材は、各自ご用意）

カリキュラム

日　程	カリキュラム	
１日目	・施工管理　（講義）	6.5 時間
２日目	・法令　（講義）	6.5 時間

目　　標　　配管工事の施工管理に関する基礎知識の習得

会　　場　　福井県若狭湾エネルギー研究センター

開 催 日

日　程	期　間
１日目	平成 24 年 9 月 26 日(水)　9:30～17:00
２日目	平成 24 年 9 月 27 日(木)　9:30～17:00

教　　材

市販の教材（配管工事関係）を使用する予定です。

お申し込みの方に、使用する教材をご案内しますので、事前に各自お買い求めの上、研修当日ご持参願います。

Ⅲ－12－①　実務研修　配管工事の現場施工管理研修Ⅱ（課題演習編）

概　　要　東京電力福島第一原子力発電所事故を踏まえ、建物構造の信頼性、重要性が再認識されている。本研修は、原子力関連施設の構造上、不可欠な配管の工事に関し、安全対策を向上するための配管工事に関する専門知識について演習を通じて学ぶことで、知識の定着化ならびに現場での施工管理の向上を目指す。

対象レベル　・工業高校卒業程度の技術知識をお持ちの方
・２級管工事施工管理技士相当の知識をお持ちの方
・１級管工事施工管理技士相当の知識を習得したい方

定　　員　１５名

参 加 費　無料（教材は、各自ご用意）

カリキュラム

日　程	カリキュラム	
１日目	・課題演習　（講義と演習）	6.5 時間
２日目	・課題演習　（講義と演習）	6.5 時間

目　　標　配管工事の施工管理に関する専門知識の習得

会　　場　福井県若狭湾エネルギー研究センター

開 催 日

日　程	期　間
１日目	平成 24 年 10 月 17 日(水)　9:30～17:00
２日目	平成 24 年 10 月 18 日(木)　9:30～17:00

教　　材

市販の教材（配管工事関係）を使用する予定です。

お申し込みの方に、使用する教材をご案内しますので、事前に各自お買い求めの上、研修当日ご持参願います。

Ⅲ－13－①　実務研修　配管工事の現場施工管理研修Ⅱ（総合編）

概　　要　　東京電力福島第一原子力発電所事故を踏まえ、建物構造の信頼性、重要性が再認識されている。本研修は、原子力関連施設の構造上、不可欠な配管の工事に関し、安全対策を向上するために重要な専門知識（工事施工や機器）について学ぶことで、配管工事の現場施工管理の向上を目指す。

対象レベル　　・工業高校卒業程度の技術知識をお持ちの方
・２級管工事施工管理技士相当の知識をお持ちの方
・１級管工事施工管理技士相当の知識を習得したい方

定　　員　　１５名

参 加 費　　無料（教材は、各自ご用意）

カリキュラム

日　程	カリキュラム	
１日目	・一般基礎　（講義）	6.5 時間
２日目	・電気・建築および工事施工　（講義）	6.5 時間
３日目	・機器および材料　（講義）	6.5 時間

目　　標　　配管工事の施工管理に関する専門知識の習得

会　　場　　福井県若狭湾エネルギー研究センター

開 催 日

日　程	期　間
１日目	平成 25 年 1 月 15 日(火)　9:30～17:00
２日目	平成 25 年 1 月 16 日(水)　9:30～17:00
３日目	平成 25 年 1 月 17 日(木)　9:30～17:00

教　　材

市販の教材（配管工事関係）を使用する予定です。

お申し込みの方に、使用する教材をご案内しますので、事前に各自お買い求めの上、研修当日ご持参願います。

Ⅲ－13－②　実務研修　配管工事の現場施工管理研修Ⅱ（設備編）

概　　要　　東京電力福島第一原子力発電所事故を踏まえ、建物構造の信頼性、重要性が再認識されている。本研修は、原子力関連施設の構造上、不可欠な配管の工事に関し、安全対策を向上するために重要な専門知識（設備の概要等）について学ぶことで、配管工事の現場施工管理の向上を目指す。

対象レベル　　・工業高校卒業程度の技術知識をお持ちの方
・２級管工事施工管理技士相当の知識をお持ちの方
・１級管工事施工管理技士相当の知識を習得したい方

定　　員　　１５名

参 加 費　　無料（教材は、各自ご用意）

カリキュラム

日　程	カリキュラム	
１日目	・空調設備　（講義）	6.5 時間
２日目	・衛生設備　（講義）	6.5 時間

目　　標　　配管工事の施工管理に関する専門知識の習得

会　　場　　福井県若狭湾エネルギー研究センター

開 催 日

日　程	期　間
１日目	平成 25 年 1 月 24 日(木)　9:30～17:00
２日目	平成 25 年 1 月 25 日(金)　9:30～17:00

教　　材

市販の教材（配管工事関係）を使用する予定です。

お申し込みの方に、使用する教材をご案内しますので、事前に各自お買い求めの上、研修当日ご持参願います。

Ⅲ－13－③　実務研修　配管工事の現場施工管理研修Ⅱ（法令・管理編）

概　　要　　東京電力福島第一原子力発電所事故を踏まえ、建物構造の信頼性、重要性が再認識されている。本研修は、原子力関連施設の構造上、不可欠な配管の工事に関し、安全対策を向上するために重要な専門知識（法令・管理）について学ぶことで、配管工事の現場施工管理の向上を目指す。

対象レベル　　・工業高校卒業程度の技術知識をお持ちの方
・２級管工事施工管理技士相当の知識をお持ちの方
・１級管工事施工管理技士相当の知識を習得したい方

定　　員　　１５名

参 加 費　　無料（教材は、各自ご用意）

カリキュラム

日　程	カリキュラム	
１日目	・施工管理　（講義）	6.5 時間
２日目	・法令　（講義）	3.0 時間

目　　標　　配管工事の施工管理に関する専門知識の習得

会　　場　　福井県若狭湾エネルギー研究センター

開 催 日

日　程	期　間
１日目	平成 25 年 1 月 29 日(火)　9:30～17:00
２日目	平成 25 年 1 月 30 日(水)　9:00～12:00

教　　材

市販の教材（配管工事関係）を使用する予定です。
お申し込みの方に、使用する教材をご案内しますので、事前に各自お買い求めの上、研修当日ご持参願います。

Ⅲ－14－①　実務研修　現場密着型技術研修

概　　要　電力会社ＯＢや元請企業ベテラン社員を講師に迎え、日常作業では学ぶことがない保修工事の知識や技術について、講師の経験を交えながら、より広く深く教えることで、作業従事者の技術力向上ならびに作業ミスや作業事故の低減を図ることを目的とする。

そのために、対象設備の取り扱い等について机上研修するとともに、原子力研修センターに設置されている原子力機器モックアップを用いた設備の分解・組立・手入れの訓練を、現場実習として一貫教育する。

研修コース*	①ポンプ、②弁、③モーター、④電源盤、⑤プロセス計装

＊（社）日本原子力技術協会が実施している「保全技量認定制度」の５種類の対象設備をもとに、研修コースを設定。

対　　象　原子力発電所の保修業務に従事する企業の作業員で構成する「作業チーム」

参 加 費　無　料

カリキュラム（例）

日　程	カリキュラム		
１日目	・取扱機器の技術的教育 ・労働災害および過去の事故、故障等の発生原因の事例教育、事故・故障等発生時の対応教育（講義）	6.0 時間	9:00～16:00
２日目	現場実習（関西電力の原子力機器モックアップ訓練設備を活用）（設備訓練）	6.0 時間	9:00～16:00
３日目		6.0 時間	
４日目		6.0 時間	

開 催 日
・任意。ただし、上記５つの設備を対象に、計５回開催予定
・実施日については、希望日を踏まえて調整させていただきます。

定　　員　各研修コースについて、５名程度の作業チームを単位として申し込んでください。（必ずチームの中には訓練機器に熟知した指導員を手配ください）

会　　場　関西電力能力開発センター　原子力研修センター（※）

申込み方法　講師となる元請企業を選択のうえ、開催希望日の約１ヶ月前までにお申し込みください。そのうえで日程を調整をさせていただきます。
申込みにあたっては、研修申込要領に添付されている「原子力施設モックアップ訓練」申込利用規定を承諾のうえ、原子力施設モックアップ研修に係る実習設備利用申込書兼終了報告書を（財）若狭湾エネルギー研究センターに提出ください。

※現場実習時に必要な作業服・保護具等は訓練者が準備してください。

※昼食について事前予約が必要です。食事代は個人負担になります。（昼食代 400 円）

研修申込み要領および申込書

研修申込み要領

参加申込み

・実務研修（**現場密着型技術研修を除く**）に参加の場合

３１ページの実務研修参加申込書に必要事項を記入の上、(財)若狭湾エネルギー研究センター宛に申込〆切までにＦＡＸまたは郵送にてお申込みください。

受講希望者数が定員をオーバーした場合、ご希望に添えない場合がありますので、あらかじめご了承ください。

※ 申込〆切は、原則各研修開催日の３週間前までです。

※ キャンセルは、研修開催日の１週間前までです。この期間を過ぎて研修に参加できなくなった場合は必ず代理出席者を立ててください。

・現場密着型技術研修に参加の場合

３２～３３ページの「原子力施設モックアップ訓練」申込利用規程の内容を承諾のうえ、３４ページの「現場密着型技術研修に係るモックアップ訓練実習設備利用申込書」に必要事項を記入し、(財)若狭湾エネルギー研究センターへＦＡＸまたは郵送にてお申込みください。

※ 申込〆切は、希望日の１ヶ月前です。最終的な実施日については設備の空き状況等を踏まえて調整させていただきます。

受講決定内容のご連絡（**現場密着型技術研修を除く**）

・お申し込み受付後１０日以内に、受講の可否に関わらず、「受講決定（可・否）の連絡」を電話・ＦＡＸ・メールのいずれかでいたします。

・お申し込みから１０日を過ぎても本連絡がない場合は、必ずお問い合わせください。

研修の対象者

・原則として、原子力発電所のメンテナンス業務に従事している県内企業等の社員（作業員、作業班長）が対象になります。詳しくは、各研修のご案内をご覧ください。

その他の留意事項

・実務研修（**現場密着型技術研修を除く**）については、１企業からの１講座当りのお申し込みは原則２名までです。

・各研修には受講レベルが記載されておりますので、受講申込み前に必ず確認ください。

・申し込みされた受講者以外の受講はできません。（**代理出席される場合は研修前日までに必ず代理出席者の氏名・連絡先を研修申込み先まで通知ください**）

・実務研修で怪我等の労働災害が発生した場合、(財)若狭湾エネルギー研究センターおよび関西電力株式会社では、一切補償いたしませんので、職場において損害保険等に加入
しておられない場合は、国内旅行傷害保険等へ加入していただきますようお願いいたします。

講座当日の留意事項

・講座開始の**１０分前までに**受付をお済ませください。（開始時間２０分前受付開始）

・遅刻や早退、中抜け、受講者の入れ替わりなどの行為はしないようお願いします。

・講座中のお電話の取り次ぎは致しておりませんが、伝言を承ります。

申込先、問合わせ先

関西電力株式会社
関西電力能力開発センター　原子力研修センター
電話　0770-72-3825（直通）
FAX　0770-72-3857

財団法人若狭湾エネルギー研究センター
福井県国際原子力人材育成センター　国内人材育成グループ
電話　0770-24-7274（直通）
FAX　0770-24-7275
E-mail　jinzai@werc.or.jp

財団法人若狭湾エネルギー研究センター 行　　FAX　0770-24-7275

実務研修参加申込書（現場密着型技術研修を除く）

申込日	平成　年　月　日	受付日	平成　年　月　日（記入不要）
会社名	（フリガナ）		
事業所名（工場名）	（フリガナ）		
所在地	〒		
担当窓口	（担当者名）　（電　話） （ＦＡＸ） （電子メール）*1　@		

希望研修番号　名称 希望開催日	

研修番号　－　－ 名称 開催日	職種　経験年数 電気・計装・機械 その他（　） 年数（　年）	（フリガナ） 氏名	昼食希望*4
		電　話*2	FAX*3
		電子メール*1	@

研修番号　－　－ 名称 開催日	職種　経験年数 電気・計装・機械 その他（　） 年数（　年）	（フリガナ） 氏名	昼食希望*4
		電　話*2	FAX*3
		電子メール*1	@

研修番号　－　－ 名称 開催日	職種　経験年数 電気・計装・機械 その他（　） 年数（　年）	（フリガナ） 氏名	昼食希望*4
		電　話*2	FAX*3
		電子メール*1	@

研修番号　－　－ 名称 開催日	職種　経験年数 電気・計装・機械 その他（　） 年数（　年）	（フリガナ） 氏名	昼食希望*4
		電　話*2	FAX*3
		電子メール*1	@

研修番号　－　－ 名称 開催日	職種　経験年数 電気・計装・機械 その他（　） 年数（　年）	（フリガナ） 氏名	昼食希望*4
		電　話*2	FAX*3
		電子メール*1	@

＊１　受講受付完了のお知らせ等をご案内させていただきますので、必ずご記入をお願いします。
＊２、＊３　連絡先が担当窓口と異なる場合に記載ください。
＊４　関西電力能力開発センター原子力研修センターで実施する研修が対象です。
※記入欄不足の場合は、コピーしてお使いください。

関西電力能力開発センター原子力研修センター

「原子力施設モックアップ訓練」申込利用規程

Ⅰ　申込について

第１条（申込方法等）　関西電力能力開発センター原子力研修センター（以下「当センター」という。）の実習設備（本申込書に記載の設備）の利用を申し込む者（以下「申込者」という。）は、当センターに電話で利用設備の仮予約をした後に、本申込書に必要事項を記入し、利用希望日の２週間前迄に（財）若狭湾エネルギー研究センターに提出し、承諾を得るものとする。

２　申込者の代表者は、訓練管理責任者として訓練全般について管理するとともに責任を持ち、当センターとの連絡、相談を行う。

３　申込者は、第５条１項で定める訓練責任者及び訓練者の氏名について本申込書に記入する。

４　当センターにて昼食を希望する場合は、本申込書に必要数および日付等を記載する。
（　昼食：４００円　）

第２条（利用時間）　実習設備の利用時間については、８：５０～１７：１０迄の間で行うものとし、この利用時間には利用前の準備及び利用後の後片付け等に要する時間を含むものとする。

第３条（利用の取り消し、変更）　申込者は、利用の取り消しまたは申込内容の変更があれば、直ちに当センターに申し出ることとする。

第４条（有資格者の手配）　天井クレーンの操作等、資格を必要とする実習設備を利用する場合は、申込者が当該資格を保有する者を手配することとする。

２　前項の資格を保有する利用者は、施設利用日までに資格の証明書等を必ず提出し、当センターによる確認を受けるものとする。

３　前項の確認ができない場合、資格を要する実習設備の利用を許可しないものとする。

Ⅱ　実習設備の利用について

第５条（訓練責任者）　申込者は、訓練者の中から、使用する実習設備の使用方法を熟知した者を訓練責任者として１名選任する。

２　前項において訓練責任者として適格な経験者がいない場合は、当センターは訓練責任者として対象設備に精通した当センター所員若しくは関係会社の社員等の第三者を仲介する。

３　訓練責任者は、訓練者に対し安全についての指導及び管理を行うとともに、訓練についての指導を行う。

４　訓練責任者は、実習設備の利用前後に授受票（施設利用日に受付にて手交）に従って施設の点検を行い、施設利用日の 17:20 までに授受票を当センターへ提出する。

５　訓練責任者は、天井クレーン使用の際には有資格者に当センターが指定する点検表にて使用前点検を行わせ、その結果を記した点検表を施設利用日の 17:20 までに当センターに提出する。

第６条（善管注意義務）　申込者及び訓練者は実習設備を利用するにあたり、善良なる管理者の注意を持って当センターの施設及び施設内の物品類を扱うものとし、申込者は訓練者に対し、以下の各号の事項を遵守させなければならない。

（１）申込者は訓練時に必要な作業服・保護具・汎用工具・消耗品等は訓練者が準備する。

（２）申込者の自動車は、指定された場所、指定された時間帯に、指定された台数で駐車する。

（３）申込者は、危険物を当センター内に当センターの許可なく持ち込んではならない。

（４）申込者は、動物、汚物を当センター内に持ち込んではならない。

（５）申込者は、当センターの利用にあたり、飲酒をしてはならない。

（６）申込者は、当センターの許可なく火気を使用してはならないものとし、許可を得て使用する場合は、十分に注意して取り扱わなければならない。

（７）申込者は、当センターが指定した場所以外で喫煙してはならない。

（8）申込者は、利用を申込んだ実習設備、実習設備に出入りするために通行してもよいと当センターが許可しているスペース、および当センター内のロビー、廊下、階段、食堂、便所等の共用スペース以外の区域には当センターの許可なく立ち入らない。
（9）申込者は、利用申込書に記入された訓練者以外の者を当センターに立ち入らせてはならない。
（１０）申込者は、酩酊、泥酔した者を当センターに立ち入らせてはならない。
（１１）申込者は、実習設備の利用上やむを得ない場合を除き、振動または騒音を発生させる等の、当センターまたは第三者に迷惑となる行為を行わない。
（１２）申込者は、当センターの施設、実習設備、備品に故障、破損等の異常を発見した場合、直ちに当センターに報告し、指示を受けることとする。
（１３）申込者は、当センターの許可を得て移動した備品等は、実習設備の利用終了時に必ず原状に復するものとする。
２　訓練者は、当センターの施設、実習設備または備品を破損、汚損または亡失した場合、直ちに当センターへ報告しなければならない。
３　前項の場合、申込者は破損、汚損または亡失した当センターの施設、実習設備、備品について、清掃等による原状回復または損害賠償しなければならない。
第７条（免責事項）当センターの責めに帰すべき事由による場合を除き、当センターは、訓練者に発生した損害について責任を負わないものとする。
２　当センターは、駐車場内での盗難、事故については一切責任を負わないものとする。
３　当センターは、当センター内で発生した、訓練者の所持品の盗難、破損、汚損については一切責任を負わないものとする。
４　本条の１項から３項については、第５条２項に従って当センターの職員が訓練責任者となる場合にも適用される。
第８条（機密の保持）申込者及び訓練者は、当センター利用時に知り得た業務上の機密について、当センターの文書による事前の承諾がある場合を除き、訓練者以外の者（以下「第三者」という）に開示漏洩しない。
２　申込者及び訓練者は、施設利用に伴って当センターが実習設備の利用方法を説明した資料等を配布した場合、当センターの文書による事前の承諾がある場合を除き、第三者への開示閲覧、配布、貸与等は行わない。
３　前項の場合、申込者及び利用者は配布した資料等を複製してはならず、当センターの求めがあった場合、速やかに返却しなければならない。
第９条（利用の中止）当センターは以下の各号に該当する場合、申込者または訓練責任者に通告の上、実習設備利用の中止、現状の回復、当センター内からの退去を命ずることができる。
（１）申込者または訓練者が本規程に違反したとき。
（２）偽りその他不正な手段により利用の許可を得たとき。
（３）申込書に記入し当センターの許可を得た利用目的以外に設備を利用したとき。
（４）その他公益上の必要がある場合等、やむをえない事由が生じたとき。
２　前項の場合、当センターは実習設備利用に関する承諾を解除し、前項１号から３号の場合については申込者に対して損害賠償請求することができる。
３　第１項の場合、申込者に発生した損害については、当センターは責任を負わないものとする。
第10条（第三者に対する損害）申込者は、訓練者が当センターの利用に伴って第三者に損害を与えた場合、その損害を賠償する。

Ⅲ　その他

第11条（有効期限）本規程は申込日より実習設備利用の最終日まで有効とする。但し、６条３項、７条、８条、９条２項３項および１０条については実習設備利用の最終日以降も有効とする。
第12条（疑義等の解決）本規程について生じた疑義、または本規程に定めのない事項については、必要に応じて申込者および当センターが誠意をもって協議し解決する。

以　上

現場密着型技術研修に係るモックアップ訓練実習設備利用申込書

(財)若狭湾エネルギー研究センター
国内人材育成グループ担当承認　　印

関西電力株式会社　関西電力能力開発センター
原子力研修センター　所長　殿
(TEL:0770-72-3825、FAX:0770-72-3857)

[利用申込確認欄]

所　長	所長代理	主任講師	講　師	講　師	指導長	総　括

申込者
法人・団体名　：　(財)若狭湾エネルギー研究センター
代表者(研修管理責任者)　：　理事長　旭　信昭
住所：　敦賀市長谷64号52番地1
連絡先：　所属名　福井県国際原子力人材育成センター
国内人材育成グループ
TEL　0770－24－7274
FAX　0770－24－7275

研修名称	現場密着型技術研修　現場実習
希望期間	自:平成　　年　　月　　日(　)　～　至:平成　　年　　月　　日(　)(　日間)
研修期間(調整後)	(事務局記載) 自:平成　　年　　月　　日(　)　～　至:平成　　年　　月　　日(　)(　4日間)
講師・仲介要否	(要)　内容　　希望元請企業(必須)【　　】 否
研修責任者(代表者)	所属名:　　資　格: 役職名:　　連絡先(TEL): 氏　名:　　(FAX):

受講者	所　属	氏　名	年齢	所　属	氏　名	年齢	備考

現場実習希望コース
＊希望コースおよび希望設備を1つ○で囲む

① 『ポンプ』 コース

3系統室[・横型単段ポンプ]

② 『弁』 コース

2系統室[・玉形弁2B5台]

③ 『モーター』 コース

2系統室[・横型モーター]
開閉器室[・竪型モーター]

④ 『電源盤』 コース

開閉器室[・しゃ断器(パワーセンター、コントロールセンター)]

⑤ 『プロセス計装』 コース

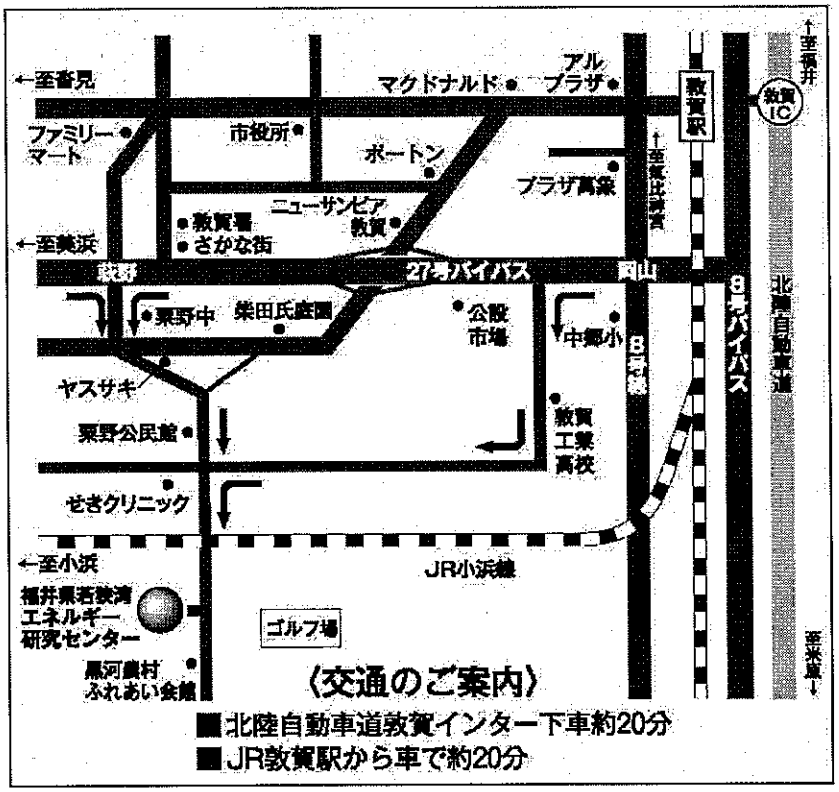
a. 現場計器室[・空気式計器、・現地計器、・原子炉保護系用伝送器、・2次系空気式制御]
b. 系統室
1系統室[・圧力計1台、・水位伝送器1台、・流量伝送器1台、・温度計]
2系統室[・圧力計4台、・水位伝送器1台、・流量伝送器1台]
3系統室[・圧力計5台、・温度計、・流量伝送器2台、・流量制御器、・圧力伝送器、・圧力制御器、・電磁流量計]

研修日付		日	日	日	日	日
昼食申込	要・否	名	名	名	名	名
研修室要否	要・否	(事務局記載) 第　　研修室			技能認定訓練の　要　・　否	
研修実施に当たっての要望事項等						

注: 各設備使用時には、事前に使用状況の確認を行い本表を提出すること。

会 場 地 図

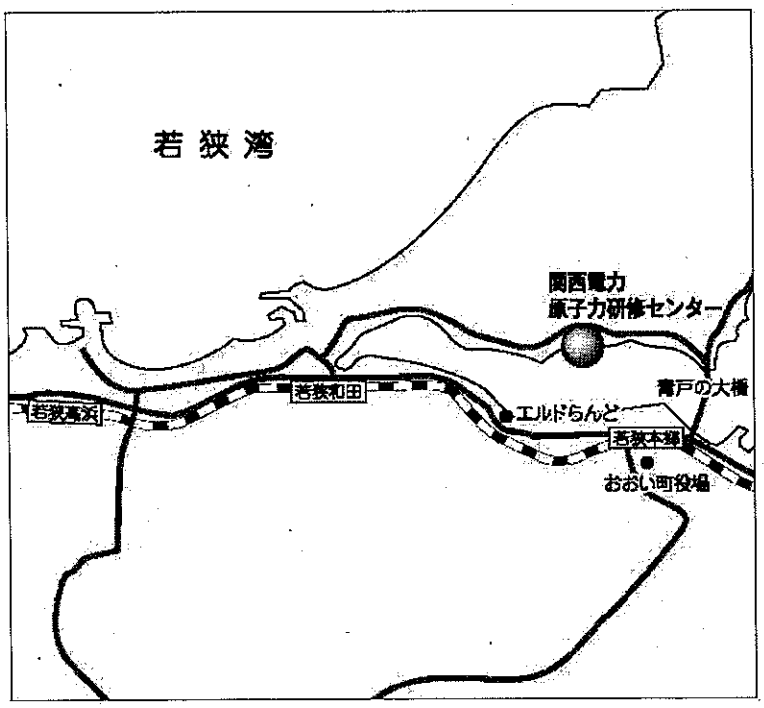
【敦 賀 会 場】



福井県若狭湾エネルギー研究センター

〒914-0192 敦賀市長谷 64－52－1　TEL:0770-24-7274

【高 浜 会 場】



関西電力　能力開発センター・原子力研修センター

〒919-2203 大飯郡高浜町水明 2　TEL:0770-72-3825